

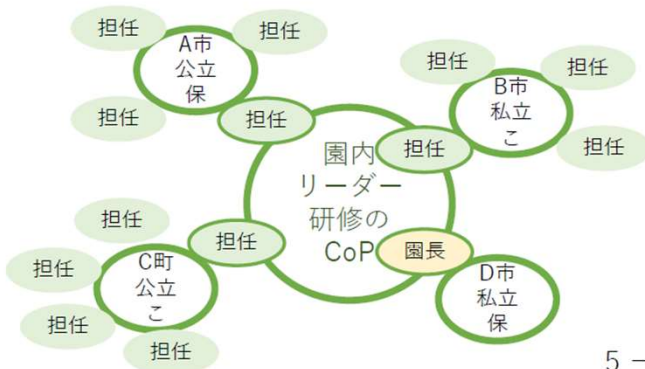
今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会（第3回）
2024年2月26日

「地域の幼児教育振興の体制」と
「小学校以降の教育や生涯にわたる
学習とのつながり」をめぐる
成果と課題

福井大学大学院連合教職開発研究科・教授
岸野麻衣

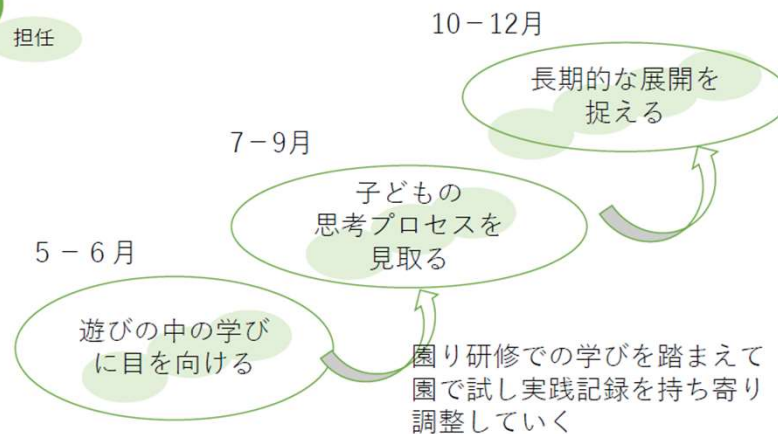
—福井県の取組事例（園内リーダー養成研修）— 園をつなぎ、保育者が共に学び合い、 子どもの学びと育ちを見取り語り合う力を培う

○園内リーダー養成研修



○毎回同じグループで語り合う。園種や市町は異なるが、同じ学年を受け持っているメンバー。
○ファシリテータは市町幼児教育アドバイザー養成研修受講者。
○令和5年度が第8期（83名）。平成27年度に開始し計867名が認定される。

自園の園内研修について語り合いながら振り返り
持ち寄った実践記録を読み合いながら振り返る
保育を見る目・語る力を培いつつ、
自園の保育の質の向上に向けて挑戦していく



○集合研修としては、オリエンテーション・実践検討3回・最終報告会（公開フォーラム）の5回。最終回以外は毎回午後の2時間。加えて実践として市町アドによる園訪問を受ける。
○小グループでの語り合いを中核に置き、園内研修や保育実践の質を問い直すミニ講義が組み込まれている。
○単発の伝達型研修ではなく、実践し省察していく協働探究研修となっている。

○福井県では、園種を越えて学び合い、保育を見合い、実践記録を持ち寄り、語り合う研修を重ねてきている。

○その核となる、福井県幼児教育支援センターの2つの研修
- 園内リーダー養成研修
- 市町幼児教育アドバイザー養成研修

○園内リーダー研修を通して園種による相違よりも共通性を共有し、どの園種でも子どもの学びと育ちに向かっていく方向性が共有されている。優れた実践記録を読むことから始めることで、質が高まってきた。園内リーダーを中心に各園で語り合う力が培われたことで、小学校との協議会等でも発揮されるようになってきた。

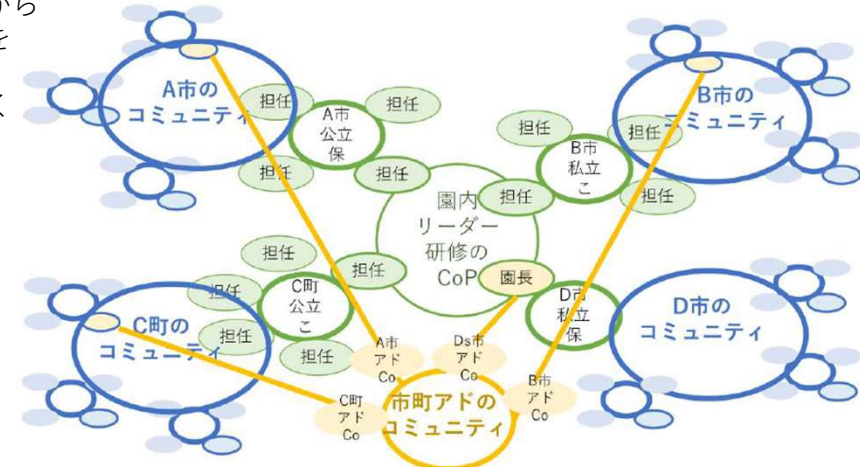
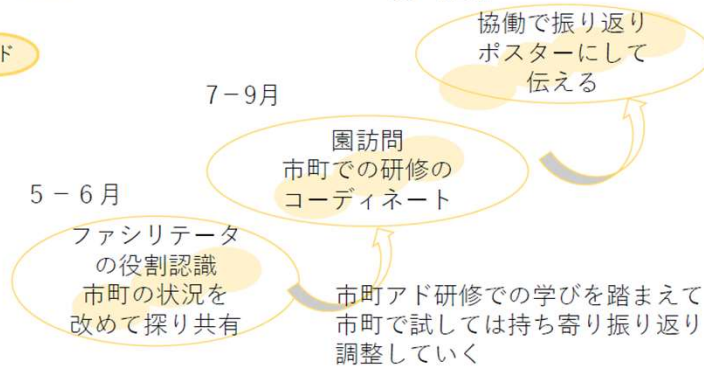
—福井県の取組事例（市町幼児教育アドバイザー養成研修）— 市町をつなぎ、保育者が共に学び合い、 保育の質の向上に向けた協働を組織する力を培う

○市町幼児教育アドバイザー養成研修

園内リーダー養成研修で自市町以外の園の状況に触れながらファシリテータとしての力量を培い、自市町でも園訪問を通じて各園の状況を掴み、他のアドバイザーと協働して必要な研修（公開保育研修等）をコーディネートしていく
10-12月



市町幼児教育アドバイザー同士も市町内で施設類型を越えてつながり市町同士もつながっていく管理職世代のつながり



○各市町から推薦された、園管理職や行政担当者が対象。
○令和5年度は27名。平成27年度に開始し、計226名が認定。過去に研修を受けた認定者との協働も推奨。
○研修では、話題に応じて、市町を解いた小グループと市町ごとの小グループを編成。

○「アドバイザー」というより「ファシリテータ」「コーディネータ」としての力量形成を重視。
○集合研修としては、オリエンテーション・実践検討3回・最終報告（公開フォーラム）の計5回。最終報告会以外は、毎回午後4時間。真ん中の2時間は園内リーダー研修でのグループファシリテータを行う。前後1時間はアドのみ。
○実践として、自市町の園内リーダーの園への訪問、市町の実態に合わせた研修の企画・運営、附属幼稚園公開研究会・分科会でのファシリテータ実践が課されている。

市町幼児教育アドバイザー養成研修を通して他市町とつながりながら、自市町の保育の質の向上に向けて、管理職世代が園種に関わらず協働し、研修をマネジメントしていく動きができてきた。

（例：公開保育研修の時期や公開園のマネジメント、担任レベル・主任レベルでの研修のマネジメント）

一福井県の取組事例（幼小接続研修）一

園と小学校をつなぎ、子どもの姿をもとに 資質・能力の柱で学びと育ちをつなぐ

○年度 幼児教育から小学校教育への接続【接続推進計画】

小学校区 > 推進担当者 所属()名前()

福井県幼児教育支援センター

※各園と小学校がそれぞれ園・小学校の欄を書き、幼児教育と小学校教育の2年間の内容を共有する。園と小学校と一緒に接続推進のための活動を考える。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A園 園長 ○○○○ 5歳児担当 代表 ○○○○	年長さんになって ・好きな遊びを見つけよう ・先生や友達と一緒に 遊ぼう ・春を見つけよう	友達と いっしょに ・公園で一緒に 遊ぼう	いろいろなことをやってみよう ・みんなで相談しながら夏祭りや 成功させよう ・夏ならではの遊びをダイナミック にやってみよう	思い切り体をうごかそう ・小学校の体育大会にお見さん お姉さんと一緒に参加しよう ・A園運動会を羨しもう ・みんなで力を合わせてがんばろう	つってあそぼう ・遊具などを利用して、工夫 してつってあそぼう ・1年生のおもちゃを見て もらおう	冬って楽しいね ・雪遊びを楽しもう ・雪や氷で工夫して遊ぼう	みんな大きくなったね ・思い出してみよう楽しかった こと ・将来の夢を話そう ・卒業式を成功させよう	夏祭り前の発表	運動会の発表	合奏発表		
B園 園長 ○○○○ 5歳児担当 代表 ○○○○	新しいクラスになったよ ・先生や友達、小さい頃の 友達と一緒に遊んで 遊ごしたりしよう ・春をみつめよう	なかよくなるよ ・公園でみんなと遊んで 仲よくなるよ ・1年生のお見さん、 お姉さんと一緒に遊ぼう	夏の遊びを 楽しもう ・プール、乳、色水 遊びをしよう	力を合わせるって楽しいな ・小学校の体育大会にお見さん お姉さんと一緒に参加しよう	秋をさがそう ・どんぐりやもみぢを 集めて遊ぼう	寒さに負けないぞ ・冬に遊びを通して四季の移り 変わりを感じよう ・虫の自然観察や伝統遊びを 楽しもう	いろいろなことができるようになったよ ・1年生に向けて期待をもって活動しよう ・大きくなった自分に自信をもとう	夏祭り前の発表	運動会の発表	合奏発表		
C園 園長 ○○○○ 5歳児担当 代表 ○○○○	大きい畑になったよ ・先生や友達と一緒に ・春の自然や身近な生き物に親しもう ・1年生と仲良しになろう ・野菜を育てよう	あの子すてきな ・水遊び・プール遊びをしよう ・園遊会いっぱい遊ぼう ・野菜の世話をしよう ・いろいろな遊びに挑戦しよう	力を合わせよう ・小学校の体育大会にお見さんお姉さんと一緒に参加しよう ・園遊会いっぱい遊ぼう ・ルールのある遊びをしよう ・秋の自然の中で遊ぼう	みんなですすめよう ・友達と力を合わせて活動しよう ・伝承遊びをしよう	もうすぐ1年生 ・2年生に向かって話を しよう	夏祭り前の発表	運動会の発表	合奏発表				
D小学校 校長 ○○○○ 教頭 ○○○○ 1年担任 ○○○○	どきどきわくわく1年生 ・がっこうにいこう ・がっこうのこと ・がっこうのことが ・なかならいいな	がっこうだいすき ・がっこうをたのびたい ・がっこうでつづけたことを話そう ・きれいにさいてね、たのびたい ・たのびたい	なつだいいっしょにあそぼうよ ・みんなのついでにあそぼう ・くまやうさぎを話そう ・つづけたあそぼう ・いきものとなかよし	たのしいいっぱいあそ びたい ・こうえんであそぼう ・はっぱやみであそぼう	あきのおもちや だいしょうごう ・あきのおもちやを つくろう ・あそ	あそ	夏祭り前の発表	運動会の発表	合奏発表			

幼児教育から小学校教育への
接続カリキュラム

学びをつなぐ
希望のバトン カリキュラム
一 学びに向かう力を発揮する 一

福井県幼児教育支援センター

【令和6年度 架け橋期のカリキュラム開発サイクルシート】

小学校区 > 接続推進担当者

期する子どもの姿(観察から)

子ども観(子どもにとってどんな存在)

学習観(子どもにとって学びとは)

指導観(保育者・教師の役割とは)

6年度(前期) 6年度(後期) 6年度(前期) 6年度(後期)

3つの資質・能力を軸に子どもの姿で学びをつなぐプロセス

幼児教育<環境を通じた総合的な学び> 5歳児 1年生 小学校教育<教科中心の自覚的な学び> ~1年生

R5夏の姿 R5冬の姿

3つの資質・能力を軸に子どもの姿で学びをつなぐ

R6(R7へ)

園からの履録の活用や入学準備の連携交換

園から小学校への子どもの様子や学びの記録を共有

園で5歳児の保護者へ小学校入学に向けて家庭でできることの説明(教師も参加して内容を話し、1年生の指導に生かす)

小学校で5歳児の子どもの履録を指導者と保護者へ提供し、園と小学校で連携推進を図る。具体的な交流などを行う。

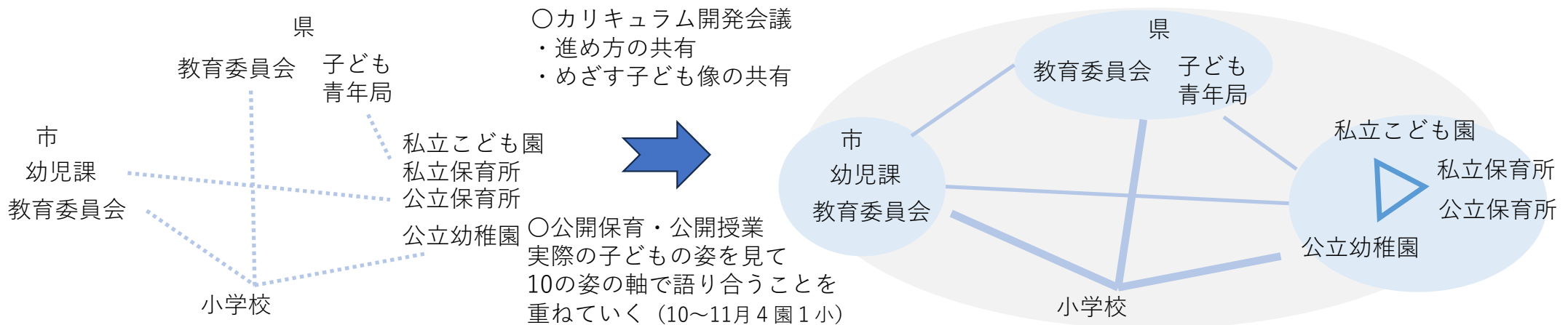
園と小学校の交流。園と小学校の交流。

※○歳児と1年生の交流活動は、「一緒に活動する」「共に考える」という互いに学びがある取り組みを行います。

○平成31年3月改訂版のカリキュラムに掲載の「接続推進計画」
各校区の園小で年間の活動を共有する意味はあるものの、活動・単元・行事等のコンテンツの配列に留まり、一度作ったらそのままになりがち。
「接続カリキュラムをすでに作っている」「これで特に問題なし」という意識。
幼児教育が一枚岩となって子どもの学びと育ちを語るようになってきたが、それが活かされてない状況。そこで…→

- 資質・能力を軸に子どもの姿でカリキュラムや活動の質、子ども観・教育観を問い直す挑戦
- ・小学校教員の園訪問+「学びの見取りシート」の記入・提出(8月)
- ・園と小共につくるスタートカリキュラム研修(12~2月)
- 各市町で校区ごとに、夏の見取りを踏まえ冬の姿を語り、保育者が子どもをどう捉えどう関わってきたのか(子ども観・教育観)を共有し、小1でどう活かしていくのかを共に語りあう。
- ・単発の研修講座を接続コーディネータ養成研修として編み直すには至っていない(各校区の悉皆にすることや一定回数集合することへの抵抗)

—滋賀県の取組事例（架け橋プログラム事業1年目）— 架け橋期のカリキュラム開発が園と園をつなぎ、 園と小学校をつなぎ、学び合う関係性へ



○架け橋期のカリキュラム開発を機に、それぞれが管轄のところと関わる官僚的文化に基づく関係性から、校区の多様な園と学校と各行政機関がつながり、子どもの学びと育ちを共に捉え、それを支えるカリキュラムを協働で考え学び合う関係性へ

○その過程でのさまざまな衝突・葛藤・食い違いこそが大事であった。

例) ・ゴールありきで「どこが何をどのようにどこまでを行うのか」分業に向かう文化から、見えない未来を協働で探り創っていく文化へ

(研究成果としてどういう報告書を出すのか、どういう枠で研究を進めるのか、どこが会議開催の日程調整や派遣依頼文書等々の事務手続きをするのか、を超える)

・めざす子ども像を語る中で浮かび上がる子どもの捉え方の違いに向き合う

(校区の子どもの姿を付箋に書いていくと、「聞く」をめぐって、小学校は「話をするとき静かにしていることができない」、園は「先生や友達の話をしっかり聴こうとする姿が育ちつつある」と出てきて、達成の有無を見る見方と育ちのプロセスを捉える見方の違いや、聞く状況の文脈の違いが共有された)

・公開保育・公開授業で具体的な事実をもとに、活動の進め方や教材の使い方とそれらの意味をめぐって、何を大事にしてきたかを問い直す (園での運動会の練習の参観において、集団演技のテーマを子どもたちで決め、一つ一つの動きを試行錯誤して話し合い作っていく姿を見て、子どもの思いや考えよりも見栄えや出来栄を優先してきたことへの反省が話題になったり、園で木の実のリースを作る中で「ボンドをあんなに使っていいのか」と疑問が出され、その意味やほかの方法が語られたり、小学校の参観で子どもが発言のたびに「お話してもいいですか」という型について必要性が問われその意味が語られたりした。)

—滋賀県の取組事例（架け橋プログラム事業2年目）— 架け橋期のカリキュラム開発での学び合いが 小学校を動かしていく

小学校1年生での変革

- スタート期に子どもが安心して過ごせる環境の模索
登校後、自分のペースで用意ができ、用意ができたら遊びを通して友達とつながりをつくっていける場を設定
- 子どもが自分で考えて動く力を発揮できる授業の模索
これまで整列して静かに見学して回った学校探検から、子どもそれぞれが自分の思いや考えをもって動く学校探検へ
- 園の先生と子どもの育ちのつながりを共有する会の模索
進学後の姿を観察してもらい申し送り情報を共有する保幼小連絡会から、子どもたちが入学後の学びを語る参加型連絡会へ

学校としての変革

- 幼児教育からのつながりを意識した校内研究、
学校としての組織体制の模索
 - ・園での遊びから、生活科や総合的な学習の時間、特別活動の時間とのつながりを考える校内研究テーマを設定
 - ・共同参観授業の事後協議において、10の姿も見ながら、子どもの学びについて考える協議の方法
 - ・8月に校区の園に分散して参観に行き、校内研修の日に見てきたことを持ち寄り、学びや育ちのつながりや環境や援助について共有し、自分の実践とのつながりを考える研修
 - ・園のお便りを職員室に掲示しコメントを付箋に記入し園に返す日常

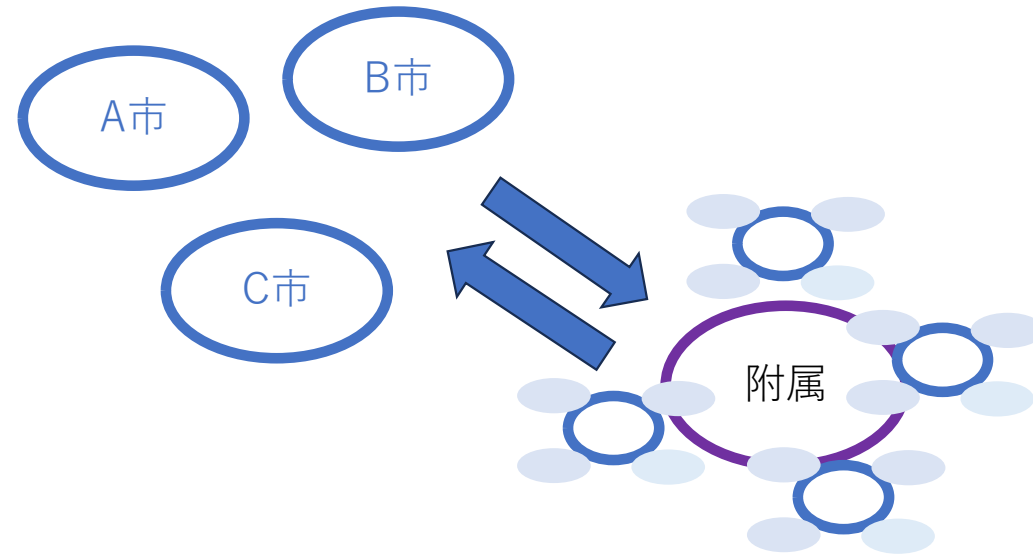
公開保育・公開授業での見取りの共有から、活動のデザインの協働探究へ

- カリキュラム開発会議のメンバーが子どもの活動のプロセスを細やかに見取るよう進化
参観者がみな、子どもが何をしているかの表面ではなく、どのように心を動かし、何を思い考え行動しているのかを見ようとする。会議そのものが研修になる。
(例：特色ある取組として仏教系私立保育所が合気道を公開するが、先生の一方向的な指示に子どもが従っている一斉活動と片づけることなく、一人一人の子どもが腕や体をどのように動かし、組んだ友達とどのような相互作用をしていくのかを丁寧に見取り、事後に語り合っていた)
- 活動のデザインの思考プロセスを共有し、環境構成を一緒に考える
子どもの思考を中核に置き、どのようにサイクルが展開していくかを想像して環境を構成しつつ、子どもと共に環境を再構成していく構えを共有していく。
(例：夏のカリキュラム開発会議で、秋の活動について、園小でグループになり、子どもの思考の展開を想像しながら環境構成を協働で探った)
- 保育や授業を参観するメンバーの広がりを多様に編み、持続と拡張に向けた学習観・教育観・研修観の転換は課題
1年目とは異なるメンバーがカリキュラム開発会議へ参入する中、元メンバーと新メンバーとが入り混じる編成が鍵となった（校内研修も同様）。持続発展が課題。公開保育・公開授業への一般参加者に見取りを広げる難しさ（背景には、学習観・教育観・研修観の根深い問題）。研究指定校区以外へ広げることが課題。
(例：1時間の目標を達成したか否かの見方から、子どものそれまで／これからの長い探究のプロセスを探りながら子どもの学びを捉える見方へ。
きめ細かに計画し準備した指導案のもとで完成された実践を見本として教わるスタンスから、生きた子どもの姿からみんなで気づきを深めるスタンスへ。)

一 附属の取組事例（新潟大学附属幼稚園・長岡小学校） 一 幼小接続の挑戦を地域に広げ，変革に向かう コミュニティの拠点になる

新潟大学附属長岡校園 幼小接続 遊びの中での子どもの育ち共有シート

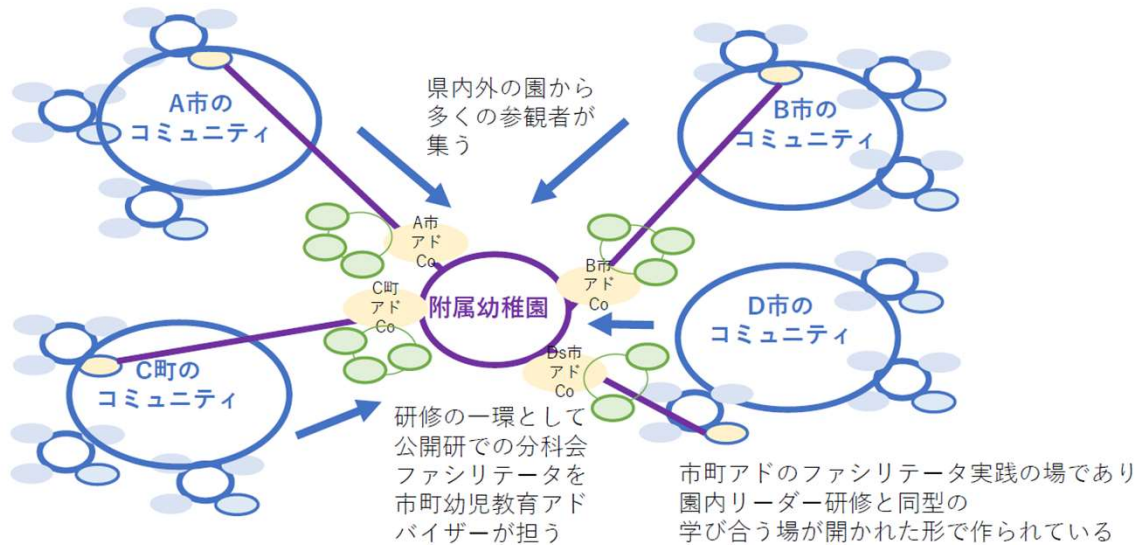
期の特徴	1 学期(4～8月)	2 学期(9～10月)	3 学期(11～2月)	4 学期(3～5月)
目で見られる子どものよき	<ul style="list-style-type: none"> 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。 園児の生活リズムを整え、生活習慣を身につけさせる。
経験で大切にできる きつめの育具・能力	<p>気づく</p>	<p>考えぬく</p>	<p>関係づく</p>	
遊びの写真				
遊びのエピソード	<p>多くの子どもが興味を持って遊んでいました。特に、おままごとコーナーで、お母さん役の子どもが、お友達役の子どもに、お茶を淹れてあげようとしていました。その様子を見て、先生も笑顔で応援していました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	
10の家	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>
遊びの中での経験	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>	<p>お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。お友達と協力して遊んでいました。</p>



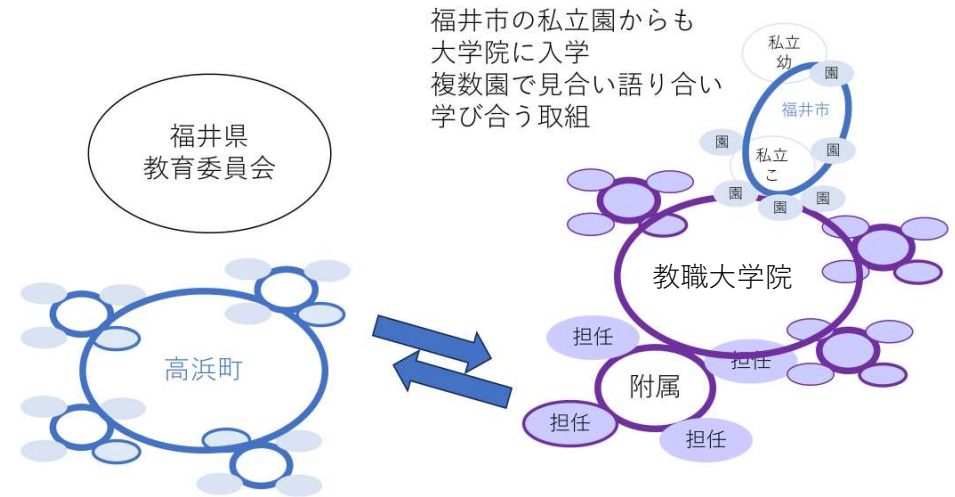
○子どもの育ち共有シートの取組
園小共通の願いや大事にしたいことを共有し，園での遊びのエピソードをもとに，幼小接続部会で子どもの学びがどのように見取れるかを語り合う。
○1年生での実践につなぐ
育ちの共有をもとに，幼小接続部会でスタート期の取組や教科学習での取組についてどのようなことができるかを協働で考える。

○附属での研修の開催「遊びのとびら」「保育のとびら」
教材研究を深める／実践を語り合うラウンドテーブル／
幼小接続の悩みや挑戦を共有する等，年間に複数回実施
○市町での研修への参画
市町主催の研修で幼小の教員が話題提供に出かけ，取組に刺激を受けた公立小学校区で同様の挑戦が始まる。

— 附属の取組事例（福井大学教育学部附属幼稚園） — 保育者の学び合うコミュニティをつなぐ 地域の拠点となる



- 毎月の園内研究会を県内の園に開き、希望者は参加可能にする
- 園内研究への研究協力者を県内の園に依頼する
- 公開研究集会には県内の園から多数の参観者が来園する
- 公開研・分科会のファシリテータを市町幼児教育アドバイザーが担い、力量形成の場となると同時に、園内リーダー養成研修受講者以外もつながりあって学び合うことができる場になる
- 附属義務教育学校と一貫した実践研究を推進し、附属義務教育学校の公開研究集会には附属幼稚園も公開し、幼小接続について学び合う場にする



- 人事交流の取組
 - ・ 福井県教育委員会との人事交流
幼稚園免許を持っている小・中学校籍だった教員が附属幼稚園へ異動。幼児教育を学び、小・中学校や教育委員会で学びを生かしていく。
 - ・ 高浜町立認定こども園・保育所との人事交流
認定こども園・保育所の保育者が附属幼稚園で勤務し（2年間）、「見合う」レベルを超えた「協働」を通じた学び合いが実現。教職大学院へも入学し、異校種・他地域の教員とさまざまにつながり、学び合い、高浜町の保育の質を高める動きを加速する。

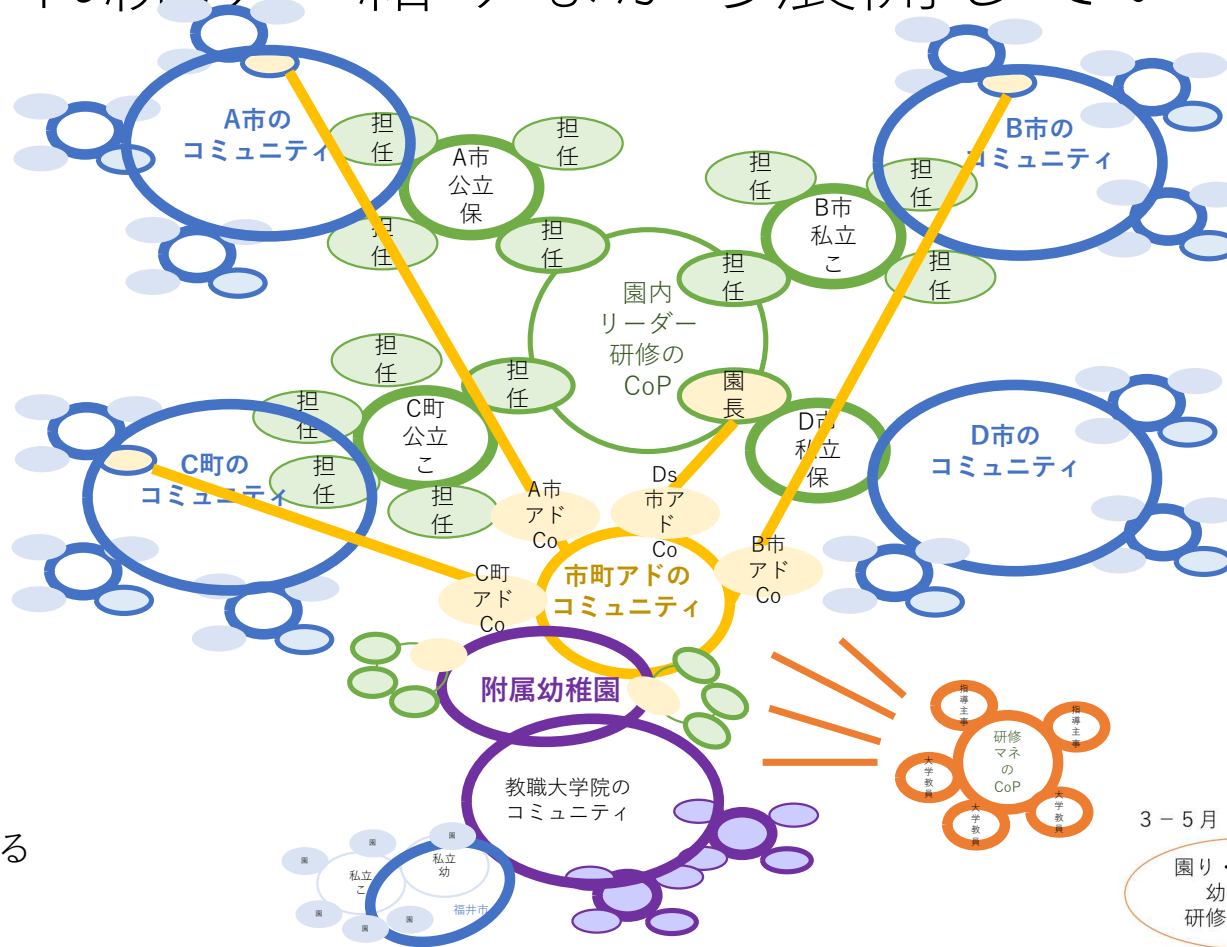
一福井県 + 福井附属 + 福井大学の生成的運動体一 分散型コミュニティが絶えず多重に 編み直され続け、絡みながら展開していく

ともするとバラバラになっていく
多系・多層の階層をつなぎ編んでいくこと

単なる「外部」ではなく互いに支え合う関係性と世代のサイクルを含む分散型コミュニティ

園校・市町・県・大学で展開するコミュニティが連動して発展していく
Professional Learning Network

これらの省察的実践を支える記録を基盤とした
Reflective Institution



研修を支える側も協働探究コミュニティの構造をもつ

(≠教え・教えられる関係
≠単なる一コマの講師)

参加者の学びを主語に研修をどうマネジメントしていくとよいかをめぐり方向性を共有し動き続けていく市町・園の状況を探り常に振り返り調整を重ねていく

